

NPO 法人 純正律音楽研究会会報 ～2019年11月発行～

ひびきジャーナル



〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 Tel:03-5317-0291
Fax:03-5317-0289 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

発行日 2019年11月6日
発行責任者 NPO 法人 純正律音楽研究会
編集 相坂政夫

No.62



菊花薫る11月、会員の皆様お変わりなく、お過ごしでしょうか。
9月22日のヤマザキパン LLC ホールで開催いたしました「癒しの音楽コンサート」は盛況のうちに終了いたしました。ご来場頂いた皆様、誠にありがとうございました。

次回のコンサートは、11月17日(日曜日)午後2時開演、滋賀県近江八幡市の安土 文芸セミナリヨホールにて「和洋の名歌」を開催いたします。

また、今年最後のコンサートは12月22日(日曜日)午後2時開演、東京都渋谷区上原の古賀政男音楽博物館内の「けやきホール」にて開催いたします。今回のコンサートは故玉木宏樹が20年前に編曲をした、デュオで楽しむヴァイオリン名曲集等の楽譜の中からオファーの多い曲を中心に「デュオで楽しむヴァイオリン名曲集 無伴奏編Ⅰ」「デュオで楽しむヴァイオリン名曲集 無伴奏編Ⅱ」「デュオで楽しむヴァイオリン名曲集 無伴奏編Ⅲ」の3冊と、それぞれのピアノ伴奏付3冊の計6冊が出版されます。

台風からコンサート、出版と悲喜交交

洗足音楽大学教授・ヴァイオリニスト
NPO 法人 純正律音楽研究会 代表
水野佐知香

2019 年もあと二ヶ月、今年は記念すべき年になりました。平成から令和へ！現在 93 歳以上の方は、大正、昭和、平成、令和と 4 つの元号を駆け抜けていらっしゃる方々なんですね。

色々な申し込み用紙等に生年月日に丸をつける欄があり、大正、昭和と 2 つだったのに平成が増えて 3 つになったと思っていましたが、早 31 年も経っていたのですね。今度は令和も増えて 4 つの中の選択になっています。もちろんですが、平成生まれの大学生が珍しかったのですが、あと 18 年経つと令和生まれの大学生の誕生ですね。本当に時代の流れが早いことに驚いています。何年ヴァイオリンを弾いていますか？という質問をよく受けます。その答えは「00 年は弾いています」ですが、自分でもびっくりします。どうしてって？半世紀は経ってしまっているのですから（笑）
こんなに経っても、まだ新鮮、新しい発見、出会いがあり、ワクワクしています。幸せです。

そして今年の台風は凄かったこと！

「自分の命は自分で守って」という政府の発言にも驚きましたが、公共機関の乗り物全てが止まり、関東中の動きが止まりました。10 月 12 日の 19 号の時はちょうど前回の会報でお知らせをしました「居留地研究会全国大会」の日になり、コンサート及び研究会は、やむなく中止、12 月 7 日に延期されました。そして翌日の 13 日の「洗足学園音楽大学ジュニアコンクール」のはずですが、12 日のあまりの台風の凄さで中止！電車も半日動かなく、山梨など遠くからのコンテスタントなどがいらっしやいましたから、結果的にはよかったのかと！コンクールを受ける方々は電車が止まっても、色々な方法を見つけて必ず来ようとされるので、こちらから中止にしてよかった！と。結局、2 月 11 日に延期になりました！

10 月末には、荒井間佐登原作、台本、演出のオペラ「真昼の夜想曲」が横浜杉田劇場で行われました。音楽はエレクトーン、ピアノ、フルート、チェロ、各 1 人ずつヴァイオリンだけ 2 人の編成でしたが、私も演奏していました。日本のオペラは暗くてつまらないと思っている予想を裏切り、お客様たちはとても感動され、世界中で公演してほしい！と切望されました。戦争で心をやられて、自分の命を絶ってしまった父と優しかった今は亡き母を思い、1 人で生きていかななくてはならない娘が、色々な出会いを通して両親の愛を感じることができ、未来に向かって力強く生きることを誓うドラマなのですが、登場人物に両親、娘、精霊、地獄の黙示録、絵画の店主など、ダンサーも踊り、感動のステ

ージで、多くのお客様が涙されていました。若い世代に伝えていかなくては、と思いました。

縁とはすばらいたと感じるコンサートを11月17日第二回「和洋の名歌」を近江八幡でさせていただきます。会場は安土文芸セミナリヨです。ハーブの三宅美子さんのご縁で3年ほど前に吉原さんと3人で第一回「和洋の名歌」を演奏させて頂きましたが、西山邦雄さんはじめ、西山義己さんが中心に6人方々がこの演奏会のためにご尽力くださっています。今回430枚のチケットを完売だそうです。本当に心より感謝申し上げます。

会員の皆さまに嬉しいご報告があります。この12月に、玉木宏樹編曲のヴァイオリンデュオ曲集が新しい装丁となり、再出版されます。ちょうど2000年の2月5日の私の誕生日に初出版されましたので20年の時を経て出版となります。色々なヴァイオリニストやヤマハさんなどからのオファーが多くあり、私も頑張りますが、出版元の音楽之友社さんも今、がんばってくれています。コンサートも12月22日に、丁度クリスマスが近いので玉木さん編曲の「くるみ割り人形」を中心にコンサートを予定しています。玉木さんの二台のヴァイオリンのハーモニーの美しさ、そして対旋律の素晴らしさをぜひご堪能していただければと思います。

11月に入り急に寒くなり、北の方々はストーブが出ているお話を聞きます。風邪、インフルエンザもなどの声も聞こえます。どうぞお身体を大切にお過ごしください。

ムッシュ黒木の純正律講座 第61時限目

平均律普及の思想的背景について(50)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

法と言った時、ユダヤ教、キリスト教とイスラーム教の世界では、神の法が前提とされる。法学はその根底において神学に支えられていることだ。であるならば、社会における法的正義の追及は神の名の下における正義の追及と同義ということになる。このような社会では、王や上官の命令を受けたとしても、それが神の正義に背くことを示すことができれば、それに背くことが可能なのだ。人がどんな立派な法律を作ろうとも、神の法には敵うべくもないということだ。

対して、現代民主主義は神の法の代わりに憲法を置き、神の支配から脱却し人間による人間のための社会を築き上げた。神を乗り越えたという意味で、神からの影響は指摘できるし、神の時代があったからこそ人間だけの社会もある、という認識である。そもそも人権という考え方にも、神の前ではすべての人間が等しく権利を有しているという発想があることを確認しておきたい。

特に、王の首を切り落として王政を廃止し、カトリック教会を政治から排除することによって、現代民主主義を達成したフランスにとっては、神の法が威力を発揮するコミュニティを領土内に持つことが政体を揺るがす大問題へと繋がることはすぐにでも理解できる。例えば、イスラーム教徒の移民が村を作り、そこにモスクを作りイスラーム法に基づいた生活を営むとすればどうだろう？イスラーム法の世界では一夫多妻制が認められているが、フランスの法律では違法である。イスラーム教徒が村を作りそこで一夫多妻制を実行していたとしたらどうだろう？ 当然、フランス政府がこのようなコミュニティの存在を認めるわけがない。

対して、アメリカにはアーミッシュなど、ある宗教の信者たちが集まってコミュニティを作り、外の世界とは隔絶した生活を送っていることは広く知られている。外界を受け入れないので彼らがどのような生活を営んでいるかはほとんど知られていない。しかし、アメリカの政教分離は個人の信教の自由を保証するので、人々が自分たちの選んだ宗教への信仰に準じて生活することを中央政府は否定できないし、外の世界に迷惑をかけない限りは自分たちのコミュニティ内で自分たちの宗教に基づいた生活を送ることは許容される。

イスラーム社会の場合、当然、イスラーム法の影響力は強い。イランという国について考えてみよう。日本の外務省のHPによれば、国家の名称は「イラン・イスラム共和国」であり、共和国を標榜しているのがわかる。しかし、フランスの共和政と違いイランは王や貴族の支配ではないものの、宗教は否定しておらず、それどころがイスラーム法に基づく社会なのだ。ここで、イスラーム教においては聖職者がいないということを確認しておきたい。神の下における人間の平等という発想があるイスラーム教では、人間の間には聖職者と一般の信徒という区別をつけることをよしとしない。いるのは聖職者ではなく、イスラーム法を正しく理解し人々を導くことのできるイスラーム法学者ということになる。そして、イラン・イスラム共和国はそのイスラーム法学者が統治を行なっている国であるのだ。共和国と言っても、王はいないが宗教に基づく国家であることが分かるだろう。

対して、アジアではどうだろうか？法家の始祖、韓非子を見てみよう。韓の昭侯はある時酒に酔うたた寝をしてしまった。それに気が付いた冠を管理する役人が衣を王にかけた。目覚めた後、事情を聞いた王は衣を管理する役人と冠を管理する役人の両方を罰したという。前者は職務を怠たり、後者は越権行為をした、というのがその理由である。法が守られることによって、社会が安定し多くの人々が幸せになれるという思想である。

韓非子から発し、やがて儒教に受け継がれる法思想は、個人ではなく社会や家族といった集団に重きを置く。時には、組織の維持のために自分を犠牲にすることが求められる。対して、ユダヤ教、キリスト教とイスラーム教の世界では、神の前ではすべての人間に優劣はなく平等であるという思想が生まれた。その中で、唯一聖職者と一般信徒の区別を積極的に認めたキリスト教文化の中から、人権という形で個人の方的権利を認める思想が発生したということは極めて興味深い。

音楽を”笑(ショウ)”にすること

NPO 法人 純正律音楽研究会 初代代表
玉木宏樹遺作

神戸生まれ。

コテコテの大阪漫才で育ち、寄席芸人に憧れる。しかし芸大なんかを卒業してみると妙に知性と教養が邪魔して（ホンマかいな！）楽屋落ちの姑息な冗談しかやってこなかった。今回、もうそろそろ思い切ったことをやってみたらという周囲の声に励まされてアルバム化の運びとなった。

歌ものではない器楽音楽、つまりインストものを材料にして人に笑ってもらうということは、やってみて一層わかったことだけど、なかなかひとすじ縄ではいかないものだ。

もともと貧困で陳腐なアイデアをいくら羅列したところで嘲笑、冷笑の笑い者になるだけということは痛感したものだ。

いろんな試行錯誤のうえにおぼろげに分かったことがひとつある。それは、自分は自分なりに、ある種の音楽の効用と悪用に長けた面を持っていないといけないということだった。

映画、TVドラマ、CM等の音楽に長い間関係してきたから映像と音楽との微妙な関係には特に関心が強い。

ひとつの例として、十年間、逢えなかった恋人同志がやっと再会できたときには、時すでに遅く、彼女（彼）は死んでしまっていたという場面を想定して、どんな音楽が合うか考えてみよう。

大抵の人は、世界で一番悲しい音楽は何かということを前提に考えるだろう。また、日本人の作曲家は自分こそ、悲しい曲の天才と思い込んでいる人が多いからどうしてもお涙ちょうだいの甘酸っぱいものになりやすい。しかしちょっと視点を変えて、部屋の窓の外にちんどん屋が通ったという設定にしてみれば、音楽は全く趣を変え、現実との物凄いミスマッチによって返って悲しみは倍加するだろう。これは一種、センスの良い音楽の悪用である。

今の説明は悲しいシーンでの場合だが、笑う場面でも同じことがいえる。

人が音楽だけで笑うということはほとんど有りえない。なにかとのミスマッチがバネになるのだ。TVのプロレス中継の音声を消してバッハの「G線上のアリア」を流すと実に面白い。

昨今の「オウム事件」報道の音楽の使い方はサスペンス音楽一本やりで、どの局をまわしてもマンネリで能がない。レゲーとか音頭とかを流してみると全然違ったものになると思うんだけど、やっぱり、不謹慎だろうなあ、……。

今はマルチメディアの時代、別に「オウム」に限らず、深刻ぶった画面を取り込みいろんな音楽を合わせて見ればよい。思わぬ効果に笑い転げることもまま有るだろう。

おっと、話が脱線してしまった。私の言いたいことはこういうことだ。うんと音楽を悪用することによって大いに笑えるものを作ること。笑いこそ最大の

ストレス解消である、これぞ本当の音楽の効用であると。

「天賦の才能」を発揮した嘉門達夫には笑い転がされた。しかし彼の作詞の才能がなかったらなんでもないものになってしまうだろう。では、作詞に頼らない音楽だけで、どこまで笑えるものがあるだろうか。

ハイドンの「びっくりシンフォニー」とかモーツァルトの「音楽の悪戯」などは論外。未だに冗談音楽に分類するセンスは理解に苦しむ。それよりは、ベートーベンの先生だったアルブレヒツベルガーの作曲した「ジュースハーブとマンドラの協奏曲」とか、カズー（野球の応援などに使うブーブー玩具）の入ったオーケストラ用の序曲を作曲したメユールの方が断然面白い。この辺は後に紹介するとして、本人達は別に冗談を意図したものではないところがまた面白い。

さて、現代ではイギリスの「ホフナング音楽祭」アメリカの「PDQバッハ」「スパイクジョーンズ」が有名だが、「スパイクジョーンズ」は英語が理解できないせいで、うがいで歌う「ウィリアム・テル」以外記憶に残っていない。

「ホフナング音楽祭」「PDQバッハ」は確かに出了た当時は新鮮な驚きと聴衆の質の高さにコンプレックスさえ抱いたものだった。しかし最近読んだ本で、ストーというイギリス人の書いた「音楽する精神」の序文によると、ヨーロッパの教育の場では音楽が軽んじられ、カリキュラムに取り入れられてはおらず、一部の愛好者の家庭教育に任されているという。すると、あの聴衆達はほんの一握りのクラシックマニアかも知れないと言う気がしてくる。それに聴衆の笑いや音楽以外のパフォーマンスに対する反応も多いんじゃないかとも思えてくる。

日本では我が師匠の山本直純氏の「宿命交響曲」が有名だ。ウラ話で恐縮だが、実はあのコンサートは私が師のアシスタント時代のときのものであり、色々お手伝わせていただいた。私も必死になっているろんなアイデアを提案したが、十分の一も採用されなかった。アイデアが小さすぎて他人にはわからないということだった。師もだいふ考えこまれたようだったが、大胆さが肝心ということで「運命」の一楽章の終わりの方でやや強引な「黒田節」とのドッキングには、ゾッとするような快感を覚えたものだった。

自分で自分の冗談の解説はしたくないが、ひとことふたことだけ。「大地の夜明け」は、イヴァ・ビットーヴァとメレディス・モンクからの刺激による即興演奏である。また「熊蜂の飛行」は黒人歌手のスキヤットとヨー・ヨー・マのチェロのCDから刺激を受けたものである。

自分の冗談の解説はまっぴらだが、他人のものは面白い。蛇足かもしれないが、冗談っぽいものを紹介しておこう。

古いものから

アルブレヒツベルガー「口琴とマンドラの協奏曲」

メユール オーヴァチュア・ブルレスケ

ブゾーニ テノールとオケのためのロンド・アルレッキーノ

(テノールはおしまいに出てきてアハハと笑うだけ)

アイヴズ カントリー・バンド・マーチ

(子供の時聴いた下手クソバンドの間違い演奏を再現するように作曲して

いる)

ジェーコブ セヴィリアは地獄に落ちろ

モソロフ 四つの新聞広告

ニールセン 交響曲「不滅」

(不滅とは文字通りで、古今の有名作曲家のパロディーで出来上がっている)

その他、神への崇高な祈りとビールソング、ジンタが厚かましく同居するマーラーを冗談音楽の側面から見る日本人は少ないだろう。音楽の流れをぶったぎるようにスネアのアドリブを要求したニールセンの交響曲の影響を受けたシヨスタコヴィッチは、十分スネア中毒にかかっている。

現代物から

イヴァ・ビットーヴァ (下手なヴァイオリンと絶叫のミスマッチ)

グールド ウェストポイントシンフォニー (足踏みならし)

ホヴァネス 神は偉大な鯨をお創りになった (オケとテープによる鯨の声)

シCHEDリン ソルフェージュ (ドレミ唱法だけによる歌い難い曲)

ティビンデン 運命の扉 (ホフナンのアレンジを担当したトルコ人の木管五重奏曲)

メレディス・モンク (ペルー生まれの声の魔術師)

ローズマリーの靈感 (死んだ作曲家たちが給食のおばさんに取り憑いて、あの世から曲を送ってきたというのだがハテサテ...)

リンドベルイ トロンボーンの犯罪 (楽器がうますぎるといってもややイヤミかどうか、トロンボーンで「小犬のワルツ」をやっている)

追記

このCDにピアノで参加してくれている土岐さんは冗談の達人で、彼に電話をかけると、いつも居留守状態でメッセージソングをたっぷりきかされる羽目になる。国際電話で大分損をしたのでここに公表することにした。また、サラリーマン組曲「三時の天使」に関して。作詞の骨子は私だが、細かいところは作詞のプロで私の友人、今は亡き柴田陽平氏のお世話になった。感謝しつつ合掌。



CD レビュー 純正茶寮
『ZESS』
純正律音楽研究会理事 黒木朋興

『ZESS』
Magma
レーベル: Seventh Records
ASIN: B07RJ9P3LX
JAN : 3760150890469



フランスのジャズロック界の雄、MAGMA の新作である。MAGMA は、ドラム／ピアノの Christian Vander の作る曲を演奏するために結成されているバンドである。なお、今年9月の来日時には私が通訳を務めたことを言添えておく。

この曲は、1970年代後半に初演されて以来、ファンがレコーディングを待ち望んでいた作品である。この度、チェコのプラハ・シティ・フィルハーモニー管弦楽団を迎え、シンフォニーヴァージョンでの発表となった。編曲はサククス・クラリネット奏者 Rémi Dumoulinz が担当しており、フランスの管弦楽法の壮麗さを感じさせる仕上がりとなっている。流石に木管奏者だけあって、管楽器の響きが美しい。

MAGMA は多くのジャズグループと違って管楽器の代わりにヴォーカルがリードをとるところに特徴がある。ただ、アカペラコーラスグループと違い、ハモリの美しさを追求するような楽曲ではない。ハモリが全くないわけではないが、ユニゾンを多用する編曲である。その面白さは歌詞に使われているコバイア語という言葉にある。実は、これコミュニケーションが可能な分節言語ではない。一部を除いてそのほとんどが意味のない音の群なのだ。

純粋にハモリの観点からすれば、ドソミ（1-5-3）の和音で完璧なハーモニーを得ることが重要となる。そこで発音される言葉はとりあえず問われない。例えば「アー」という音で十分だろう。大切なのはドソミの和音の調和であり、楽音の音の高さが問われているのである。対して、この曲のコバイア語の歌詞「Sanctus sanctus Īezūz Kīstusz」を考えた場合、「San」という音と「Īezūz」

という音では響き、すなわち周波数が違う。Christianはメロディを単に音の高さの変化だけで考えるのではなく、どのような響きを持った語と組み合わせるかを計算に入れて作曲する。その音に対する鋭い感覚は常人には及びのつかないレベルだと思う。

今年の来日時においても、ピアノの弾き語りの曲のリハーサル中にちょっと調律が気になるというので、調律師に来てもらって調整してもらうことになった。Christianによれば、高音部のいくつかの音が途中で止まってしまうとのこと。日本人スタッフの1人は「音のサステインを得たければペダルを踏めば良いだけだしなあ」と首を傾げていた。それでも調律師が中を開けて見てみると、なんと弦にミュートがかましてあるのを発見。金属のフレームに高音が響き過ぎるのを嫌ってミュートをかましていたとのこと。そのミュートをとってChristianに弾いてもらおうと、これで良いありがたいとの回答を得た。Christianがいわゆる譜面に記される音の高さ、リズムや拍子を超えて色々なことを聞き取り音楽を紡いでいる事を再確認した出来事であった。

Christianのその才能に一度は触れて欲しいと思う。

ユダヤ教について

純正律音楽研究会 正会員
弁護士 齋藤昌男

目次

- 第1. ユダヤ教の概要
- 第2. ヘブル語聖書
- 第3. 現代のユダヤ教
- 第4. 総括

第1. ユダヤ教の概要

1. 緒論

ユダヤ教の概要については、個々の「重要な事項」について解説をし、その個々の解説を通じて、ユダヤ教の全体像を多少なりとも御理解していただきたいと思います。しかし、本年の初頭に途轍もない本が現われました。岩波新書の市川裕著「ユダヤ人とユダヤ教」です。まず2ヶ所引用します。

(1) 55ページ、4行目以下

「ユダヤ教の世界はキリスト教の世界とは異なり『宗教』から切り離された世俗法の領域は存在しない」これはイスラム世界と同様です。

(2) 57ページ、4行目以下

「そこで問われたユダイズムの概念を、キリスト教の世界でしばしば言及されるヘブライズムの概念と混同してはならない。両者はまったく別の概念である。ヘブライズムとは、モーセの律法が与えられる以前の、

アブラハムにさかのぼる一神教信仰を指す概念である。このアブラハム的一神教が預言者を通じてキリスト教へ展開したと、キリスト教の世界では想定している。しかし、ギリシア文明を継承した異邦人のキリスト教が、特殊ユダヤ的概念であるユダイズムを正当に理解しているとは言い難い。」

すると、以下の雑文もキリスト教世界の影響を受けたアプローチと言わざるを得ません。しかし、色々と検討してみなければ何も分からないし、進歩ありません。そこで現在筆者が理解している範囲で書くしかありません。

但し、聖典に関しては、章を改めて別途論じたいと思います。

2. 歴史、地理、ユダヤ人に関するもの

(1) ユダヤ (Judea)

前928年、ソロモン王の死後、古代イスラエルは、南北に分裂しました。北の王国は、「イスラエル」を名乗り、南は「ユダ (ヤ)」と言いました。南にいた民族は、ユダ族とベニヤミン族でした。

(2) イスラエル (Israel)

少なくとも下記の4つの意味があります。

(i) イサクの子、3代目族長ヤコブの別名。

(ii) ダビデ王が統一した王国で、その子ソロモンの代まで続いた。

(iii) ダビデの子ソロモン王の死後、南北に分裂した王国の北側の国名、前述の通り、南側をユダと言った。

(iv) 1948年に独立した新興のユダヤ国家の名称

(3) ヘブライ (Hebrew)

日本語では「ヘブル」とも言います。「ヒブラー」は英語で、もっぱらユダヤ人 (と古代イスラエル人) の言語の名称として使われる言葉がありますが、民族をさす言葉でもあり、「ヘブライ人」という表現もあります。また「ヘブライ文化」などという場合、「ユダヤ」とほぼ同じ意味で用いられています。

(4) パレスチナ (Palestine)

地中海東岸の南部地帯をさし、ユーラシア、アフリカ大陸をつなぐ交通上の要衝として古くから世界史の舞台に登場しました。パレスチナの名は前12世紀頃、この地に定着したフィリスティア人 (Philistines) に由来しヘレニズム時代以降この呼称が一般化しました。聖書では「カナンの地」「約束の地」「乳と蜜の流れる地」と呼ばれユダヤ教徒、キリスト教徒にとっての故郷・聖地であります。3大陸をつなぐ陸橋というその位置からこの地への強国の侵入・支配は古くから絶えることがなく、アッシリア、新バビロニア、ペルシア、アレクサンドロス帝国、ローマそしてイスラム教国とつぎつぎと支配者の交替が見られ、イスラエルは苦難の歴史を体験しました。第1次世界大戦後はイギリスの委任統治領となり1948年イスラエル共和国がこの地に誕生しました。

しかし、イスラエルから独立、開放を唱えるアラブ系住民が自らを「パレスチナ人」と呼び、新たな意味合いを帯びている点に注意すべきであ

ります。

(5) ユダヤ人 (Jew)

もっとも一般的な定義としては、ユダヤ人とは「ユダヤ人の母親から生まれた人、またはユダヤ教に改宗を認められた人」というのが、イスラエルの帰還法（ユダヤ人と認め、国籍を与える法律）に規定されたユダヤ人の定義です。

父親がユダヤ人でも母親が非ユダヤ人の場合、子供はユダヤ人でないと、ユダヤ法は定めています。母親がユダヤ人なら、確実にユダヤ人の血は受け継がれていくわけです。父親はなぜだめなのか。子供の父親はだれか母親以外は本当には分からないからです。

また背景としては、シオニズムがユダヤ民族国家をめざす世俗的な運動であったのにもかかわらず、国家建設の領土的正統性をユダヤ教に求めざるを得なかったことと、宗教勢力の協力を現実的に必要とした側面があります。宗教法の管轄下にある事項としては、出生、結婚、離婚、相続、埋葬などに関する事柄やユダヤ人か否かの判定をする権限があり、これらの裁定権は首席ラビ庁にあります。このため、ユダヤ人と非ユダヤ人との結婚はユダヤ宗教法（ハラハー）では認められないため、婚姻を望む場合は外国で市民婚の手続きを取る必要があります。

(6) アシュケナジー (Ashkenazi)

文字どおりには、アシュケナジーとは「ドイツ」という意味の古いヘブライ語で、ドイツや東欧に住むユダヤ人の子孫を指します。アシュケナジー・ユダヤ人は、中世ドイツ語とヘブライ語の混じり合ったイーディッシュ語という独特の言語を話しました。

(7) スファラディー (Sephardi)

スペインのユダヤ人の子孫を指します。1492年、キリスト教徒にスペインが占領され、キリスト教への改宗を拒否したユダヤ人は追放され、地中海沿岸に散らされてしまいました。スファラディー・ユダヤ人は、スペイン語とヘブライ語の混成語であるラディーノ語を使っていましたが、今はすたれています。

この他に言葉としては、アラブ・イスラム圏のユダヤ・アラビア語があります。

(8) ミズラヒ

アジア・アフリカ系のユダヤ人を指す言葉です。

3. ユダヤ教、その教義、儀式に関するもの

(1) ユダヤ教 (Judaism)

ユダヤ教、ユダヤ人という言葉は、ヤコブの第4子ユダからきております。旧約聖書によると、イスラエルの12部族の一つとなっているユダ族の名は、このユダに由来します。ユダヤ教と言った場合、通常ユダヤ人の奉ずる宗教全体を指しますが、厳密にはバビロン捕囚以後形成された律法宗教をさします。ヤハウエが唯一絶対の神でありみずからはその選民としての確信をもった点、捕囚前のイスラエル宗教と変るところはありませんが、捕囚前の宗教が集団的・民族的であったのに対しユダ

ヤ教は個人的・教団的特徴を持ちます。また亡国後宗教生活の中心が神殿からシナゴグ（会堂）に移行し、これに伴い会堂の指導者である律法学者が祭司に代って重要な役割をもつにいたったことも大きな変化であります。ユダヤ教が律法宗教となったのもこのためであります。

(2) ユダイスモス

前述の岩波新書を再び引用します。

「独自の歴史と思想をもつと自覚する多くのユダヤ人は、ギリシア文化に自分たちとは異質なものを感じた。そこで、ギリシア文化とは違う自分たち独自の精神文化を総称する、ギリシア語で『ユダイスモス』という概念を考案した。ユダイスモスは、ギリシア語で伝わる七十人訳聖書の『第二マカバイ記』の中で用いられる言葉だが、これが転じて『ユダイズム』という言葉が生まれた。現代の私たちはそのユダイズムを、いわゆる『ユダヤ教』と呼んでいるのである。」（55ページの最後の行以下）

(3) ラビ・ユダヤ教

岩波新書を三たび引用します。

「西暦七〇年の第二神殿崩壊を起点とする、その後のユダイズムのことを『ラビ・ユダヤ教』と呼ぶのが一般的である。ラビ・ユダヤ教はいわば『生き残ったユダイズム』である。これは、ラビと総称される律法学者によって構想され組織化されたユダヤ共同体の思想と実践を指す。ラビ・ユダヤ教が歴史上いつ始まったかは議論の余地があるが、その歴史の実体を否定することは難しい。」（58ページ、2行目以下）

(4) ヤハウエ (YHWH)

旧約聖書において唯一神とされている神の名前を言います。ユダヤの民と契約し、イスラエルの土地を与えました。この神はユダヤ教、キリスト教の唯一神とされます。旧約聖書の一部を聖典とするイスラム教にとってのアッラーは同じ事になります。

(5) 律法と戒律

律法とは、ユダヤ教で神から与えられた掟のことを言い、その代表的なものが「モーセ十戒」です。戒律とは、聖書や律法を解釈する律法学者の定めた、ユダヤ教徒が守らなければならないとされる決まりを言います。伝統的に613の戒律（ミツボットと言う）があります。

(6) モーセの十戒 (Ten Commandments) (出エジプト記 20 : 3 - 17)

紀元前13世紀の古代イスラエルの預言者モーセが、唯一神ヤハウエから与えられた10個の戒律の事を言います。

- 第1戒 あなたには、わたし（ヤハウエ）以外に神があってはならない。
- 第2戒 あなたは自分のために像を作ってはならない。
- 第3戒 あなたは神ヤハウエの名を空しく唱えてはならない。
- 第4戒 あなたは安息日を守り、聖別しなさい。
- 第5戒 あなたの父と母を敬いなさい。
- 第6戒 あなたは殺してはならない。

- 第7戒 姦淫してはならない。
- 第8戒 盗んではならない。
- 第9戒 隣人に対し嘘の証言をしてはならない。
- 第10戒 隣人の家（およびその所有する物いっさい）をほしがってはならない。

(7) シナゴーク (Synagogue)

キリスト教の教会堂や仏教のお寺などから類推して、ユダヤ教の礼拝をする場所と理解されている様ですが、シナゴークは単なる礼拝場以上に大切な場所として扱われているそうです。その起源は昔からの様ですが、旧約聖書のトーラーには、どこを探してもシナゴークについての記述はありません。ユダヤ民族は、紀元前586年に神殿破壊に遭いバビロンに捕囚として連れて行かれますが、シナゴークがバビロニア各地に設置され、シナゴークは祈りの場であるだけでなく、聖書研究の場ともなりました。この神殿中心主義から会堂中心主義への転換は、祭司という職業的世襲的集団により維持された儀式的宗教から万人祭司的な聖典研究への移行を意味し、その後のユダヤ教の発展のうえで重要な意味をもつことになりました。

(8) ラビ

ラビはキリスト教の聖職者である神父や牧師のような役割を帯びていますが、シナゴークの礼拝にはラビの存在が不可欠というわけではありません。ラビはキリスト教のように神と人の仲介者になったりはしません。シナゴークを維持する共同体が、ラビを自分たちの牧師として、或いはカウンセラーとして迎えるのです。シナゴークでの礼拝において、ラビが中心的にリードするわけではありません。ただユダヤ教には、タルムードと言う「口伝律法の集大成」と言われるべきものがあります。タルムードは一人の人が書いた書物ではなく、1000年以上もの時をかけて、何十世代にもユダヤ民族の英知が結集して生み出されたものです。ラビはこのタルムードを生み出し、また出来たタルムードを研究する学者でもあります。

(9) 過ぎ越しの祭り (Passover)

出エジプト記によると、モーゼがユダヤ人をひきいてエジプトを出ようとしたとき、エジプトのファラオは、400年以上もの間奴隷をしていたユダヤ人を解放したがりました。そこで、神は、エジプト人の家に生まれた第一子を全て死なせることにし、ユダヤ人の家にはこの災いを免じた、即ち見過ごした（過ぎ越した）とされています。ユダヤ人たちは、自分たちの第一子の命が救われたことと、エジプトを脱出出来たことに感謝して「過ぎ越しの祭り」を祝うようになりました。

神がエジプトに災いを下そうとしたとき、犠牲の子羊の血を入り口の柱に塗ったユダヤ人の家は、神が「過ぎ越して」いったので救われました。

種入れぬパンは、イスラエルの民が急いでエジプトから出て行くときの様子に関連します。民は、まだパン種（イースト）を入れていない生

地をこね鉢に入れたまま外套にくるみ、肩に担いだ（出エジプト記 12・34）と書かれているところに由来します。

(10) 割礼 (Circumcision)

創世記 17:11-12 に由来する儀式で、男根の包皮を切り取る外科手術を伴う宗教的な儀式を言い、「アブラハムの契約」と呼ばれますが、その意味や起源はよくわかっておりません。伝統的に生後 8 日目に行います。

4. 人物に関するもの

(1) アブラハム (Abraham)

最初の族長として「創世記」に記されている人物で、彼の時代には、まだ 613 の戒律（ミッポットという）が示されていませんでしたが、彼はその全てを遵守したとされています。アブラハムの子がイサク (Isaac) で、イサクの子がヤコブ (Jacob) で、双子の兄弟エサウ (Esau) の弟です。

(2) モーセ (Mose)

ユダヤ教の始祖とされる人物であります。多分に伝說的側面もあります。「出エジプト記」の記載からすると、彼が生きたのは前 13 世紀のことになります。五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）は彼の作とされ、また伝統的に全ての口伝律法もシナイ山で彼が神から授けられたとされています。

(3) ヨシュア (Joshua)

モーセによって後継者に任命されました。

(4) サムエル (Samuel)

士師の時代から王の時代への転換期のイスラエル民族史の人物（前 11 世紀）です。

(5) ダビデ (David)

前 1010 年—790 年頃の人で、ユダとイスラエルの統一王朝の初代の王です。サウルの後継者で、ソロモン (Solomon) の父です。

(6) ソロモン (Solomon)

前 10 世紀頃の人で、ダビデの子であり、ソロモンの死後、王国は南北（ユダとイスラエル）に分裂しました。

5. 日常生活に関するもの

(1) ユダヤの暦

AD とか BC は、明らかにキリストの生誕日からの計算ですからユダヤ教徒は使う筈がありません。使わざるを得ない場合でも CE (Common Era) 何年という言い方をします。紀元前は BCE (Before Common Era) といった略号を使います。

ユダヤの暦の年は、西暦に 3760 年を足した年数に等しいのですが、これはラビたちが聖書に基づいて天地創造から計算したという年数を採用したものです。

(2) シャバット (Shabbat)

ユダヤ教の安息日を意味し、神は 6 日間で天地を創造し 7 日目には休

んだという旧約聖書の教えを守り、ユダヤ教では、シャバットとなる金曜日の日没から土曜日の日没まで、労働することを一切禁止しています。また、シャバットにおける公共交通機関の停止や下記のコシエルの遵守にも宗教法による規制があります。

(3) コシエル (Kasher) (ユダヤ宗教法の食物規定)

食物規定と呼ばれる食べ物や料理に関する規定では、すべてが「コシエル」(律法にかなっているの意味)であることが求められます。

(4) タリット (Tallit)

ユダヤ教徒が祈るとき肩からショールを掛けているのを見かけますが、それがタリットです。その目的は、神の律法を守ることを忘れないためにタリットを身に付けるのだと説明されています。

(5) 嘆きの壁

西暦70年、ローマ軍によって破壊されたエルサレムの神殿のなかで、唯一残った外壁の一部で、ユダヤ教において、もっとも神聖な建築物とされておりま

(6) ダビデの星 (Star of David)

正三角形を二つ合わせた六角形の星を指します。実は、この六角形の模様は、古代の遺跡で世界中のあちこちで見られます。ダビデの星の幾何学的な美しさから、人類の普遍的なデザインとでも言えるでしょう。これがユダヤの象徴になるのは17世紀以降のことで、新興イスラエルの国旗にも使われています。

6. その他

(1) ディアスポラ (Diaspora)

ユダヤ民族の発祥の地であるエレッツ・イスラエル (イスラエルの地の意味) すなわちパレスチナの外にあるユダヤ社会を言います。ディアスポラは前6世紀のバビロン捕囚に始まり、以来ユダヤ国家イスラエルが1948年に独立した今日も存在します。

(2) カバラ (Kabbalah)

「伝授されたもの」の意で、3~6世紀に誕生したユダヤ教の神秘思想の事を言います。特に12世紀以降フランスやスペインで、また16世紀にガリラヤ湖の北の町ツファット (サファッドとも言う) が中心地となり発展しました。宇宙創造の秘密から聖書に隠された神秘的な意味を解き明かすための暗号解読法まで多岐に及びます。

(3) 死海文書 (Dead Sea Scrolls)

死海の西岸のいくつかの遺跡から出土した文書群を呼ぶ名称です。1947年に死海西岸の洞窟で発見された約850巻の写本が特に有名で紀元前2世紀から紀元1世紀に書かれたもので、ユダヤ教の一派クムラン教団のものとされており、クムラン文書と呼ばれております。

(4) ポグロム (pogrom)

1881年、ロシア皇帝アレクサンドル2世が暗殺され、一味にユダヤ人女性が含まれていたことからユダヤ人への憎悪が一挙に沸騰し、ロシア帝国が設定した「ユダヤ人居住区域」内に多くの都市でユダヤ人へ

の暴力と迫害が連鎖的に起こりました。そのあまりの惨状に、ロシア語で破壊を意味する「ポグロム」がユダヤ人の迫害と虐殺を指す言葉となりました。

(5) イスラエルにおける徴兵制

イスラエルでは18才になると男子は約3年、女子は約2年の兵役の義務を負いますが、イスラエルの少数民族を除く、非ユダヤ・アラブ系市民と一部のユダヤ教徒は、兵役の義務がなく、潜在的敵対勢力とみなされております。イスラエルがユダヤ教の宗教法が貫徹する国家になることに世俗的なユダヤ系市民からの反発が強くなります。

第2. ヘブル語聖書

1. イスラーム世界では、イスラーム教徒、キリスト教徒、それにユダヤ教徒は「経典の民」と呼ばれています。経典とは聖書のことであり、ユダヤ人にとっては、聖書とはヘブル語聖書のことであり、これはキリスト教徒にとっては旧約聖書であります。この旧約聖書は、イスラーム教、ユダヤ教、キリスト教の三つの宗教が共有する経典であります。勿論、それぞれの宗教において、読む仕方が異っていますが、それぞれの宗教において経典であることには変わりありません。
2. ユダヤの聖書のことを英語などではヘブライ聖書 (Hebrew Bible) と呼ばれたりもします。実は、正確に言うと、聖書はすべてがヘブライ語で書かれているのではなく、アラム語というセム語の一種で書かれた部分が若干あります (エズラ記とネヘミヤ記はアラム語)。
3. キリスト教は自らの「新約聖書」との対比で旧約聖書と呼んでいます。しかし、キリスト教が旧約聖書と呼ぼうが、ユダヤ教にとっては唯一の「聖書」であります。しかし「聖書」では誤解を招くので、ここでは「旧約聖書」と呼びます。
4. まず日本語訳聖書では、旧約聖書は、次の様に39の書からなっています。

(旧約聖書39巻 < 3 × 9 = 27 > 新約聖書27巻と覚えます。)

- | | | |
|----|------------|---|
| 律法 | (1) 創世記 | |
| | (2) 出エジプト記 | |
| | (3) レビ記 | |
| | (4) 民数記 | |
| | (5) 申命記 | |
| 歴史 | (6) ヨシュア記 | |
| | (7) 士師記 | |
| | (8) ルツ記 | |
| | (9) サムエル記 | 上 |
| | (10) サムエル記 | 下 |
| | (11) 列王記 | 上 |
| | (12) 列王記 | 下 |
| | (13) 歴代誌 | 上 |
| | (14) 歴代誌 | 下 |

- (15) エズラ記
- (16) ネヘミヤ記
- (17) エステル記
- 文学 (18) ヨブ記
- (19) 詩編
- (20) 箴言
- (21) コヘレトの言葉
- (22) 雅歌
- 預言 (23) イザヤ書
- (24) エレミヤ書
- (25) 哀歌
- (26) エゼキエル書
- (27) ダニエル書
- (28) ホセア書
- (29) ヨエル書
- (30) アモス書
- (31) オバデヤ書
- (32) ヨナ書
- (33) ミカ書
- (34) ナホム書
- (35) ハバクク書
- (36) ゼファニヤ書
- (37) ハガイ書
- (38) ゼカリヤ書
- (39) マラキ書

ところで旧約聖書は、最近ゼロから出発して新しく翻訳したとされる日本聖書協会の聖書協会共同訳によると、1ページに2段に印刷されていて1478ページあります。従って簡単に通読することは出来ません。従って、教文館発行の「旧約新約聖書ガイド」とか、講談社発行の「聖書名言辞典」（これも各書ごとに解説しています）などを参考にして、読み込んでゆくしかありません。

5. ユダヤ教のヘブル語の聖書

中味は全く同じなのですが、ヘブル語の聖書は、次の25の書からなるとされて編集されています。そして、25の書は、伝統的に3つの部分に分けられています。

- 法（トーラー）(1) 創世記
- (2) 出エジプト記
- (3) レビ記
- (4) 民数記
- (5) 申命記

預言者（ナビーム）

- (a) 前の預言書（4書）

- (1) ヨシュア記
- (2) 士師記
- (3) サムエル記 上・下
- (4) 列王記 上・下
- (b) 後の預言者 (4書)
 - (1) イザヤ書
 - (2) エレミヤ書
 - (3) エゼキエル書
 - (4) 12小預言書
 - (12人の預言者、即ちホセア、ヨエル、アモス、オバデヤ、ヨナ、ミカ、ナホム、ハバクク、ゼファニア、ハガイ、ゼカリヤ、マラキ)

諸書 (カトウービーム)

- (1) 詩篇
- (2) ヨブ記
- (3) 箴言
- (4) ルツ記
- (5) 雅歌
- (6) コヘレトの言葉
- (7) 哀歌
- (8) エステル記
- (9) ダニエル記
- (10) エズラ記
- (11) ネヘミヤ記
- (12) 歴代誌

6. 聖書は何を記しているのか

- (1) 「律法」にはアブラハムのカナンの地への移住からモーセの死に至るまでのイスラエル人の物語が述べられております。エジプトに住み着いたイスラエル人が奴隷にされ、モーセに率いられてエジプトを脱出し、40年間砂漠をさまよい、ヨルダン川を渡って約束の地に住み着くまでを描いています。「律法」では、イスラエル人の生活を律する約束事、即ち、十戒と、ユダヤ教の戒律となる無数の生活上及び信仰上の約束事をも描いております。またイスラエル王国時代の宗教活動の儀式について詳しく書かれております。
- (2) 「預言書」は二つの部分からなっております。最初の四つは律法の続きの話になっており、イスラエル人がヨシュアの指導のもとカナンの地に入り、士師の時代を経て、サウルによる専制制度の確立、ダビデとソロモンの時代、王国の分割、最初の神殿の破壊、そして紀元前587年の独立の終りまでを描いております。

残りの預言を集めた書は、イスラエルのいわば野にある宗教指導者の説教を集めたものです。紀元前7世紀以降の数々の指導者が発言してお

ります。イザヤ、エレミヤ、ホセア、アモス、エゼキエルたちが有名で、その後の預言者たちハガイ、ゼカリヤ、マラキの説教は、バビロニア脱出後ユダヤに帰還した初期のものです。

- (3) 第三の部分は、その他諸々の書からなっており、主としてペルシャ時代のものです。最初は150編の諸篇から始まりますが、最大の特徴は、全て神と対峙する形で作られており、単なる自然描写というものはないことでもあります。ヨブ記は大きな苦しみにじっと耐え、最後に報われる人物を主人公にした物語であります。箴言は宗教的、道徳的な格言集であります。その後に巻物として知られる五巻の短い書物が来ます。愛の歌（雅歌）、エルサレムの荒廃を悲しんだ換歌（哀歌）、人生の意味に関する瞑想（コヘレトの言葉）、ダビデ王の曾祖母の物語（ルツ記）、ペルシャのユダヤ人を根絶しようとしたペルシャ宮廷における陰謀を描いた物語（エステル記）の5つであります。

律法が重視されたユダヤ教にあつて、この様なパストラルな流れがあることは、驚くべきことです。

7. トーラー (Torah)

トーラーとは、タナッハすなわちユダヤ教の聖書の一部となっているもので、旧約聖書の創世記、出エジプト記、レビ記、民数記および申命記のいわゆるモーセ五書で構成されています。

タナッハ (Tanakh, Tanach) とはヘブライ語で、聖書の三主要部分、すなわち、Torah (トーラー) つまり「律法」、Nebhiim (ナビーム) つまり「預言者」、および Kethubhim (カトゥービーム) つまり「諸書」の頭文字TNKを有声音化した頭字語であります。タナッハは、当初は口承で伝えられていましたが、最後には文書の形に集成されたものであります。

8. タルムード (Talmud)

タルムードとは、ラビの手になるユダヤ教に関する文書や解説が集大成されたものを言います。

タルムードの主構成要素となっているのはミシュナ (Mishnah) と呼ばれるものと、ゲマラ (Gemara) と呼ばれるものであります。また、ハラハー (Halacha) と呼ばれるものとアガダー (Agadah) と呼ばれるものもタルムードを構成する重要な要素となっています。

9. 聖書は、何時、いかなる方法で各巻が選ばれ、現在の形に編集されたのか。聖書は古代ヘブライ語（但し、エズラ記とネヘミヤ記はアラム語）による書物の集大成であります。長年の研究にも拘らず、現在に至るまで、いかなる方法でこの書物が選ばれ、現在の形の様に編纂されたのか正確にはわかっておりません。わかっているのは、紀元一世紀には、聖書に含まれている各巻は、宗教的な聖典と見なされていたことでもあります。

10. 七十人訳 (Septuaginta、ラテン語で70の意味)

旧約聖書のギリシャ語訳で、作業はアレクサンドリアで行われました。本来ヘブライ語を理解しなくなったユダヤ人のための、ユダヤ人による訳です。いわゆる外典を含んでおり、またマソラといわれる旧約のヘブライ語本文と若干異なる本文を底本にしています。先述の如く、「ユダイスモス

と言うのは、七十人訳の外典から取られています。

第3. 現代のユダヤ教

1. 旧約聖書の最後の書（第39番目）のマラキ書が書かれた時代は、紀元前515年から紀元前五世紀半ば過ぎまでのどこかの時代であると推定されています。
2. そしてローマ人が紀元70年にエルサレムの神殿を破壊したとき、彼等はユダヤ王国を壊滅させたり、ユダヤ人をエルサレムから完全に追放したわけではありませんでした。しかし、ローマ人の取った手段は、相当に苛酷なものであり、多くのユダヤ人は捕えられ、また国外に出た者も多くありました。こうしてユダヤの土地は、正式にローマの一属州となり、ユダヤ人は各地に散って行ったものであります。そしてユダヤ人の国はなくなってしまった訳です。
3. ところで、ここからいきなり現代に飛ぶ訳にもいきませんので、次はシオニズム（Zionism）から話を進めることにします。シオニズムはユダヤ人の建国運動の事を言います。シオン、即ちエレット・イスラエル（イスラエルの地の意味）（同じ地域がローマ時代は「ペリシテの土地」の意としてパレスチナと呼ばれた）への帰還の願望は古くからありましたが、シオニズムという言葉が現われたのは19世紀の終りの頃のことです。単にパレスチナに戻るだけでなくユダヤ民族の郷土を築く運動を言います。

ユダヤ人国家建設の願望を最初にはっきり述べたものは、1862年モーゼス・ヘスが刊行した「ローマとエルサレム」と題した論文です。パレスチナに安住の国を建設しようとする運動の具体化は、テオドール・ヘルツル（1860年—1904年）によりなされました。彼はドレフェス事件（1893年）（アルフレッド・ドレフェスはユダヤ人で、フランスの参謀本部の大尉であった）で明らかになったフランス国内の反ユダヤ主義を受けて、残りの半生をユダヤ人問題の国際的解決に捧げることを決心しました。1897年、テオドール・ヘルツルは「ユダヤ人国家」を刊行し、1897年、スイスにおいて「第1回シオニスト会議」を主催しました。そして、この会議では「シオニズムはパレスチナの地に国際法で保障されたユダヤ人国家の建設が達成されることを切望する」との決議がなされました。政治的な国家建設を主眼とするヘルツル派に対して、文化・精神面を強調するハム派との対立もあり、当時の主権国のトルコとの交渉の失敗、パレスチナ以外に国土を求める説、またパレスチナ在住のアラブ人との紛争もあり、運動はなかなか進みませんでした。

4. イギリスの3枚舌外交

イギリスは、下記の3つの矛盾している協定や宣言をしており、これが今日のパレスチナ問題を複雑にしている原因の一つとなっています。（以下、京大西洋史辞典参照）

(1) フサイン・マクマオン協定

第1次世界大戦中の1915年、アラブ人のオスマン帝国（トルコ）からの独立に関して、イギリスとアラブ人指導者との間に結ばれた協定です。トルコから独立しようとするアラブ人の民族運動は、第1次世界大戦を契

機として活発となりました。メッカのシャリフであったフサインはエジプト及びスーダンのイギリス高等弁務官マクマオンと密書を交換し、イギリスの承認を得て支持を約束されました。しかし、この協定はイギリス政府が他方でフランスのシリア領有を認めたことと矛盾することになり、第1次世界大戦後の紛糾の原因となりました。

(2) サイクス・ピコ協定

第1次世界大戦中の1916年5月9日、イギリス、フランス、ロシアの間で結ばれたトルコ分割の密約です。第1次世界大戦中、3国はオスマン帝国（トルコ）崩壊後の中近東の処置について協議しました。イギリス代表サイクスとフランス代表ピコとの間でトルコ領の処分に関する原案を作り、ペテルブルグにおいてロシアの承認を得ました。パレスチナに関しては、国際管理地域とし、内部シリアとモスール地区はフランスの勢力範囲、トランスヨルダンと中部メソポタミアはイギリスの勢力範囲として、アラビア人の独立を認めました。翌1917年、この協定に不満なイタリアの要求が入れられ、小アジアの南部をイタリア領としました。しかし、この協定は、1915年にイギリスが行ったアラブ人に対する独立の約束（フサイン・マクマオン協定）と矛盾し、ロシアでは革命が生じてソヴィエトがこの密約を暴露するに及んで、結局、密約は実行されませんでした。

(3) バルフォア宣言

第1次大戦中の1917年11月、イギリスの外相バルフォアがパレスチナにユダヤ人の民族的母国の建設を認めることをシオニストに約束した宣言のことを言います。イギリス軍の対トルコ作戦基地パレスチナ守備のためユダヤ住民の協力を得るためのものでした。だが他方で、イギリス政府は、フサイン・マクマオン協定により、オスマン帝国内のアラブ民族の独立を認めていたため、アラブ・ユダヤ両民族のパレスチナ獲得紛争をひき起す原因となりました。

5. 1947年11月29日、国連はパレスチナを分割し、ユダヤ人国家とアラブ人国家を建設する案を可決しました。1948年5月14日、イスラエルが独立を宣言し、イギリスの最後の部隊が撤収すると、アラブ諸国が攻撃を開始し、所謂、第1次中東戦争が始まりました。アラブ側7ヶ国の巨大な軍事力に対してイスラエルの勝ち目は殆んどないと思われていたところ、1949年3月の停戦協定が交わされた時点において、イスラエルは、ガリラヤ地方、沿岸地域、ネゲブ、エルサレムへの交通路、さらにエルサレム市街の西部地域をその支配下に収めました。

1949年1月に総選挙が行われ、引き続き国会（クネセツと呼ばれる）が召集され、ダヴィド・ベン・グリオンを首相とし、ハイム・ヴァイツマンを大統領とする最初の政府が樹立されました。そしてアラブ諸国と休戦協定を結び、1950年にはクネセツは「帰還法」を制定し、ユダヤ難民に直ちに市民権を与えました。

6. この後、現代まで大まかに年表で逐って見ると次のようになります。

- (1) 1956年 シナイ戦争（第2次中東戦争）、英仏軍とシナイ半島占拠
- (2) 1967年 六日戦争（第3次中東戦争）、エルサレムの再統一、ヨル

- ダン川西岸、シナイ半島、ゴラン高原を占領
- (3) 1987年 第1次インティファダ（イスラエルの占領地においてパレスチナ住民により組織的に展開された占領支配に抵抗する運動）勃発
- (4) 1993年 オスロ合意
- (5) 1994年 パレスチナ自治政府（PNA）が結成され、PLO議長ヤーセル・アラファートがチュニジアから占領地へ移住、PNA大統領となる。イスラエルとヨルダンが講和条約。
- (6) 1995年 ラビン暗殺
- (7) 2004年 アラファート議長は、2002年から、自治区ラマラ（ヨルダン川西岸）の議長府でイスラエル軍の軟禁下に置かれていましたが、2004年11月パリ郊外の軍病院で死亡。
- (8) 2008年 ガザ戦争：キャスト・レッド作戦。国連と人権団体がパレスチナ人死者は1400人以上、そのうち926人が非武装民間人であると発表。イスラエル側は民間人3人、兵士6人が死亡。
- (9) 2014年 境界線防衛作戦
7. 全世界でユダヤ教徒は、何人位いるのか。

- (1) 1941年には、ヨーロッパにはおよそ870万人のユダヤ人がいたそうであり、それが、1945年においては、その内の少なくとも520万人がナチス・ドイツによって殺されたそうです。その上、飢餓や疫病のために数百万人のユダヤ人が死んでいるそうです。これがホロコーストでありました（黒川知史著、ユダヤ人の歴史と思想、株式会社ヨベル発行、16ページ）。ホロコースト（holocaust）とは、ユダヤ教の、焼き尽くす献げ物を意味するギリシャ語が語源だそうです。
- (2) ユダヤ人が何名と言うと、その全員がユダヤ教を信じているとの錯覚に陥り易いのですが、株式会社ヨベル発行、黒川知文著「ユダヤ人の歴史と思想」22ページは、以下の様に言っています。
- 「今日イスラエル国においてユダヤ教を信じる者は10%、慣習的にユダヤ教を守る者は40%、あとの60%は無信仰者である。また、今日全世界人口の0.2%である1千4百55万人がユダヤ人であるが、ユダヤ教徒は少数である。」

人口の4割は、何らかの形でユダヤ教を守り、その内の4分の1は、しっかりとユダヤ教を守っているという趣旨でありましょう。

- (3) ではイスラエル以外はどうか。市川裕著、ユダヤ人とユダヤ教、岩波新書158ページには以下の統計が掲っています。

各国別のユダヤ人の人口（人）

2017年現在

イスラエル	6, 451, 000
アメリカ	5, 700, 000
フランス	456, 000
カナダ	390, 000
イギリス	289, 500

アルゼンチン	180,500
ロシア	176,000
ドイツ	116,500
オーストラリア	113,200

後は全て10万人以下であります。

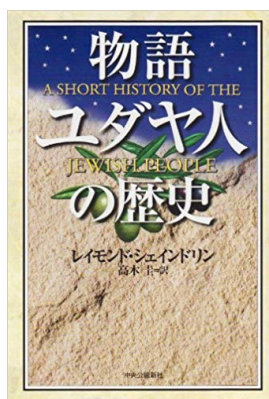
具体的な説明は何も書かれていませんが、前記の黒川知文氏の説明から推し量ると、ユダヤ人の人口の1割がユダヤ教を信じ、ユダヤ人の人口の約半分がユダヤ教を守っていると理解して、大きな誤りはないと思料します。

第4. 総括

様々な点から見て、現在ユダヤ人の置かれている状況は有史以来かつてないほど恵まれている、との事であります（物語ユダヤ人の歴史、287ページ2行目以下）。そのユダヤ人の国家イスラエルは、パレスチナ問題で出口の見えない紛争をかかえております。一方、今回、改めて旧約聖書を読むと、ユダヤ人はものすごい選民意識を持っています。そして、ユダヤ教は、一神教として世界最古の宗教だということは、ほぼ間違いないとされています。アメリカには570万人のユダヤ人がおり、そのアメリカのユダヤ人は、645万人のユダヤ人のいるイスラエルをたえず支援しています。ユダヤ人にとってイスラエルがあるように、パレスチナ人にとっても独立国家があるべきです。こう見て来ると、ユダヤ教が、そしてイスラエルが今後どうなってゆくのか、眼を離せない状況であります。

以上

2019年（令和元年）9月13日脱稿



今後のスケジュール

【癒しの音楽コンサート】

2019年11月17日(日曜日)14時開演

会場：滋賀県近江八幡市飼町南

「安土 文芸セナリヨホール」

出演：水野佐知香(Vn)、三宅美子(Hp)、吉原佐知子(箏)

【デュオで楽しむヴァイオリン・出版記念コンサート】

2019年12月22日(日曜日)14時開演

開場：古賀政男音楽博物館「けやきホール」

出演：水野佐知香(Vn)、荒井章乃(Vn)、森夕希子(Piano)



おたより募集！

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。

次号の【ひびきジャーナル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒168-0072

東京都杉並区高井戸東 3-2-5-102 NPO 法人 純正律音楽研究会

お電話：03-5317-0291 FAX：03-5317-0289

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

http://just-int.com/

2019年11月6日 発行責任者：NPO 法人 純正律音楽研究会

編集：相坂政夫